

資料 2 - 6

「令和 6 年度 認知症施策の推進に係る
東海北陸管内 6 県意見交換会」
(令和 6 年 9 月 3 日)

令和 6 年度 認知症施策の推進に係る東海北陸管内 6 県意見交換会資料

令和 6 年度
認知症施策の推進に係る
市町村支援に向けた取組
(三重県)

令和 6 年 9 月 3 日
三重県長寿介護課

(1) 現状、評価・課題

市町村の現状と県の取組（事業等）	評価・課題
<p>① 認知症初期集中支援 【現状】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 29市町に33チームが設置されている。・ 678人訪問（R5.3月）→723人訪問（R6.3月） <p>【県の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 認知症初期集中支援チーム員研修の費用は県が負担	<p><チームが抱える課題等></p> <ul style="list-style-type: none">・ 認知症が進行してから表面化してくるケースも多く、認知症に関する普及啓発が更に必要である。・ 好事例（三重県鈴鹿市の取組） 「認知症初期集中支援チーム対象者フローチャート」により、誰が相談対応を行うべきかを確認。 初期集中支援チームの活動内容を地域の関係者や生活関連事業者に共有する「事例検討会」の開催。
<p>② 認知症地域支援・ケア向上 【現状】</p> <p>○認知症カフェ 全市町に設置済み</p> <ul style="list-style-type: none">・ 120ヶ所（R5.3）→128ヶ所（R6.3） <p>若年性認知症の集い、家族交流会といった地域資源が増えた</p> <p>○認知症ケアパス 全市町において作成済。</p> <p>○認知症地域支援推進員の活動状況</p> <ul style="list-style-type: none">・ 全29市町のうち、28市町において配置済み（令和6年4月1日現在）	<p>○認知症地域支援推進員 認知症サポーター養成講座など事業を実施することが目的になりがちであり、改めて推進員としての役割や活動の認識、他の事業との連動も意識しながら地域づくりに向けた取組をしていく必要がある。チームオレンジコーディネーター、初期集中支援チーム員を兼務している場合もあり、各事業の遂行に支障がみられる。</p>

(1) 現状、評価・課題

市町村の現状と県の取組（事業等）	評価・課題
<p>③認知症サポーター活動促進・地域づくり推進</p> <p>○チームオレンジ活動状況等</p> <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームオレンジ設置数：13市町に25チームが立ち上がっている。 ・オレンジチューター数 10名（R5年度実績 7市町計10回派遣） ・チームオレンジ設置ハンドブックを更新 ・県内のチームオレンジの活動状況報告を更新 * 県HPに掲載 <p>【県の取組み（事業等）】</p> <p>※（2）市町村支援に向けた取組みに別途記載</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オレンジ・チューター派遣事業を実施。市町のコア会議といった場にオレンジ・チューターが参加し、設置に向け助言するといった伴走的な支援を実施。 ・三者（市町、県、オレンジ・チューター）によるZOOMミーティングを行い、個別具体的な課題に対して、チューターが助言し、県は課題把握、設置にむけた支援を実施。 ・チームオレンジコーディネーター養成研修を実施。
<p>④その他及び県独自の取組等</p> <p>○若年性認知症等</p> <p>【現状】</p> <p>若年性認知症者が地域で希望することが出来る場所として、介護事業所や集いの場、カフェなどが開設されてきている。</p> <p>【課題】</p> <p>若年性認知症者に特化した支援の取組が進みにくい。企業や行政における入口の支援、若年性認知症の理解促進を強化する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・若年性認知症者には多様な支援が必要であると共通認識し、適時適切な制度の説明、支援機関へつなげられるよう、高齢・障がい福祉の行政担当者研修会を実施。 ・本人や家族の思いをお聴きする意見交換会を実施。今後は発信する機会を増やし、仲間づくりや理解を深める取組の実施が必要。
<p>（総評・今後の方向性・今後重点的に取り組むこと）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームオレンジの立ち上げ支援を継続する。認知症の理解を深め、普及啓発活動、本人発信支援等の取組を進める。 ・認知症疾患医療センターを医療・介護の連携拠点とし、かかりつけ医等から初期の段階で専門医療につながって、診断後支援機能を発揮し、地域包括ケアにつなげる体制を構築する。 	

(2) 市町村支援に向けた取組

■ 市町村支援に向けた取組

(三重県)

標題	チームオレンジの整備促進
具体的な内容	・「共生」の取組として、市町にチームオレンジが整備されるよう、チームオレンジコーディネーター研修を開催した。 ・オレンジ・チューター派遣事業を実施し、市町におけるチームオレンジの①構築支援、②資質向上支援(活動の継続等)を行っている。

■ 取組に至った経緯、背景、課題認識

市町の実情によって、チームオレンジの設置がなかなか進まない現状がある。また、設置済みの市町においても、①チームの中での理念の共有が必要、②自主的な活動組織とならない、③サポーターの活動意欲を高める必要がある。という課題がみられた。そもそも、人材がいない、ステップアップ講座が開催できていないという課題もある。チームオレンジ3つの基本を基本理念として共通認識し、本人のニーズの把握の仕方、ニーズにあった支援活動ができるよう、活動事例を交えてオレンジチューターからの講義、グループワークを実施した。

■ 取組の成果、成果に至った要因等

・チームオレンジの3つの基本に関するQ&Aを周知し、柔軟に様々な場面で本人ニーズの把握が可能であることを研修で伝えられた。チームオレンジの整備に向けて、地域の活動団体や認知症の人の居場所への働きかけなど、設置に向けた計画を立てていく機会になった。
・今後も対面、WEBも含め、市町のコア会議やステップアップ講座等で、オレンジチューターの助言を受けられるよう、市町支援を継続する。

(2) 市町村支援に向けた取組

■ 市町村支援に向けた取組

(三重県)

標題	認知症市町連絡会
具体的な内容	<ul style="list-style-type: none">・市町認知症施策担当者及び地域包括支援センター職員等が認知症施策について意見交換をする場の開催・認知症SOSネットワークの周知、市町(四日市市、鈴鹿市)の認知症施策の取組紹介、認知症施策についてグループワーク

■ 取組に至った経緯、背景、課題認識

- ・認知症SOSネットワークの周知不足
- ・昨年度の認知症市町連絡会のアンケートで、「認知症施策全般に関する話し合いがしたい」との意見が多数あったため
- ・他市町の認知症施策について知る機会が少なく、好事例等の横展開をしていただくことを目的に実施した

■ 取組の成果、成果に至った要因等

- ・三重県認知症高齢者等SOSネットワーク連絡調整事務要領について周知をし、三重県警察本部の方にもきていただいてSOSネットワークの重要性を伝えられた。
- ・参加者アンケートで「他市町の良いと思う取り組みを聞いて、自市町に持ち帰り導入を検討したい」との意見も多数いただいた。今後も市町の取組を横展開し、事業の視野が広がるよう、市町支援を継続する。